

応用理学部会活動報告

研修会「平成 17 年度 (社) 日本技術士会東北支部応用理学部会第 2 回研修会」

地震が来ても、助かります！助けます！～防災マップを生かすために～」

主催：東北支部応用理学部会 共催：宮城県技術士会・東北支部防災研究会

日時；平成 18 年 2 月 10 日 13 時 30 分～17 時 30 分

場所；(株)ユアテック 3FC 会議室（仙台市青葉区）

講師；中里俊行氏 ((社)日本技術士会東北支部応用理学部会、技術士 (応用理学部門))

蘓武昌春氏 (南光台悠友クラブ 総務)

阿部育子氏 ((財)仙台ひと・まち交流財団

仙台市東部市民センター・東部児童館館長)

北川 進氏 ((社)宮城県社会福祉協議会)

神田重雄氏 ((社)日本技術士会東北支部 防災研究会, 技術士 (建設部門))

黒墨秀行氏 ((社)日本技術士会東北支部応用理学部会地震防災 WG,
岩手県技術士会, 技術士 (応用理学部門))

1. はじめに

防災をテーマとした、平成 17 年度応用理学部会第 2 回研修会を、宮城県技術士会、東北支部防災研究会と共催で実施した。昨年の部会活動報告 (ガイアパラダイム技術士東北第 39 号, p17-19) でも御紹介した地震防災 WG の出前講座の報告と技術士以外の講師をお招きし、討論会を開催した。

参加者は技術士 33 名、一般 17 名 (講師 6 名含む) の合計 50 名であった。

滝田応用理学部会長の開催の挨拶、井上宮城県技術士会代表の共催の挨拶のあと、守屋副部会長から、今回の研修会の趣旨について説明があった。

研修会は 2 部構成で、最初に防災に関する応用理学部会の活動 (主に地震防災 WG の出前講座) の報告、次に討論会を行った。

報告では、最初に WG 委員長の中里氏から、地震防災 WG の活動内容の紹介と平成 17 年度に 4 回行ってきた出前講座 (1 講座は 3 日間) の事例として南光台市民センターにおける活動の概要について紹介がなされた。次に、出前講座のマイマップづくりに参加された地域の防災活動リーダー蘓武氏から「地域における防災マップづくりの実践」についてお話をいただいた。

討論会では、最初に東部市民センター・東部児童館館長の阿部氏から「地震防災をもう一度見直す」

(一防災活動への期待と課題一) というタイトルで基調講演をいただいた。その後、阿部氏をコーディネータとして蘓武氏、北川氏、神田氏、黒墨氏の 4 人のパネリストでパネルディスカッションを開催した。最後に、会場の参加者から短い時間ではあったが、質問、感想等をいただき、討論会を終了した。

閉会の挨拶は本田副部会長が行い全体を終了した。

2. 研修会の趣旨

今回の研修では、日頃、防災活動されている方々からのお立場での地域防災についての意見や考え方をお聞きしたい。そして、いまなお残されている深刻な問題、新たに発生すると思われる問題や心配に対して、われわれが少しでも良い方向に対応できるようにしたい。

3. 報告

3.1 地震防災ワーキンググループ活動報告

中里 WG 委員長は、これまでの応用理学部会活動および地震防災ワーキンググループ (以下 WG と略) の立ち上げや出前講座の活動に至る経緯を説明し、表 1 に示す活動を述べた。その後、南光台市民センターの市民企画講座として実施した出前講座について準備段階から出前講座の開催について説明した。さらに講座で実施したアンケート結果を示し、受講者に概ね好評を得たことを報告した。わかりやすく

表-1 これまでの活動一覧(H17)

開催場所	地形・地質	—地形・地盤からみた地震防災マイマップづくり—			その他
		①出前講座	②フィールドワーク	③整理・討論	
(財)仙台ひとまち交流財団 南光台市民センター	・丘陵地・宅地造成地 ・切土・谷埋盛土	9/17(土)AM 140名	9/18(日)AM 35名	9/24(土)AM 30名	8/27 事前調査
中田市民センター	・名取川河岸低地 ・扇状地 ・後背湿地 ・自然堤防(礫・砂・粘土)	10/1(土)PM 20名	10/8(土)PM 6名	10/16(日) PM 6名	10/1 事前調査
太白区中央市民センター	・広瀬川河岸低地 ・扇状地 ・後背湿地 ・自然堤防(礫・砂・粘土)	10/29(土) PM 16名	11/5(土)PM 11名	11/12(土) PM 11名	10/15 事前調査
石巻市住吉町自主防災会 住吉町公民館	・北上川河岸低地(砂・粘土) 厚さ65m以上の沖積層	10/26夜 38名	-	-	マップづくり H18年度へ

専門的な知識を伝える工夫が必要との反省も述べ、今後も出前講座の活動を通じて地域に密着した地震防災の活動を続けていく予定であることを述べた。

3.2 地域における防災マップづくりの実践

南光台悠友クラブ総務の蕪武正春氏は、現在名南光台地区で防災マップづくりなど地震防災活動を熱心に行っている。地区の民生委員、市民企画講座の委員も務めておられる。防災マップは出前講座以前に2004年から取り組んできており、2005年9月の出前講座に参加され、地区の改訂版防災マップを昨年(2005年)12月作成し悠友クラブ会員に配布した。

防災マップづくりについて、地域の町内会の問題、小・中学校との連携の問題、災害弱者の問題など多方面にわたるさまざまな問題の存在とそれを乗り越えながら作成したマップと地域の防災意識の向上、コミュニケーションのあり方などについて意見を述べられた。最後に、改訂版の防災マップをパワーポイントで示した。

4. 討論会

4.1 基調講演「地震防災をもう一度見直す」

(財)仙台ひと・まち交流財団 仙台市東部市民センター・東部児童館館長の阿部氏は、上記タイトルに加え、一防災活動への期待と課題—という副題で、災害の多い日本で自身の地震体験などから防災に関する協働やイメージ力、ネットワークなどのキ

ーワードを提起され、災害をイメージできる地域のリーダーの重要性について述べた。さらに、災害の復旧に関する子供(特に小・中学・高校生)の力の利用や日ごろのコミュニケーションの大切さを強調された。また、最後に出前講座における問題点として、プレゼンテーションのトレーニングにより、より多くの情報が伝えられるのではないかという指摘をいただいた。一般の方に専門的な情報を伝えるときの大きな課題であり、この点の努力が必要である。

4.2 討論会(パネルディスカッション)

基調講演をされた阿部館長をコーディネータとして、報告2をされた蕪武氏、さらに宮城県社会福祉協議会の北川氏、防災研究会委員長の神田氏、応用理学部会地震防災WG・岩手県技術士会の黒墨氏の4名のパネリストで約2時間にわたるパネルディスカッションを行った。最初に自己紹介を兼ねて、それぞれの地震防災への取り組みについて約1時間にわたって述べていただいた。

蕪武氏は、防災マップづくりに関連して、災害弱者の安否確認・救助などを行う“見守りたい(隊)”をマップに表示することで、災害時のみならず普段から地域の安全を確保したいと述べられた。また、学校との連携の難しさなどにも触れられた。

北川氏は地域の社会福祉協議会と災害時のボランティアの関係、特に受け入れ態勢などの問題点を2003(H.15)年の宮城県北部連続地震に際しての市

町村の実績から述べ、災害に対するコミュニケーションの大切さを強調した。特に、災害時の行政活動の限界にも触れ、地域の社会福祉協議会と防災活動、専門家との連携の重要性を強調された。

神田氏は、(社)日本技術士会防災特別委員会作成の資料を基に、災害に対する技術士会の取り組みについて紹介した。その中で、主な活動として地震に限らず、北陸の豪雨災害の調査、「減災の技術」における防災への提言などについて述べた。さらに、各支部での防災に対する取り組みの紹介や「士業」14団体への加盟と連携についても紹介された。黒墨氏は出前講座への参加の経緯、マイマップづくりの感想、岩手技術フォーラムでの出前講座の紹介と活動への影響、岩手県での防災の取り組みをNPO岩手防災ネットで行う予定であることなどを述べた。特にマイマップづくりでは、地域に住んでいる人がいちばんその地域を知っていることを強調され、自信を持って防災対策することが重要と述べた。さらに自身の活動として共助のための救急・救命についても活動を開始したことを述べた。

各自の取り組みについての説明後、約1時間の討論を行った。この中では、ネットワーク、人と人のつながりなどをキーワードに地域住民と専門技術者、学校、市町村などの行政、地域の社会福祉協議会などの連携について討論がなされた。また、マップ作成などの問題点や町内会の問題点としてプライバシーに関する意見も出された。この中では、神戸市長田区で直接住民の話を聞いた北川氏から「もう一度阪神淡路クラスの地震が来るとした何をしますか？」と聞かれた住民が「町内会活動です」と答えたというエピソードも紹介され、普段のコミュニケーションの大切さが改めて強調された。

防災活動のネックになっているものは何かという話題では、特に比較的若い世代で被災者になる当事者意識が低いので、防災活動が盛り上がらないのではないかと。技術者が人の中に入って活動する難しさなどがあげられ、防災士などの地域の防災リーダーの育成がされてきていることが紹介された。また、防災訓練の多様化も強調され、多くの人に参加してもらう行事にすることが大切との意見もあった。災害の復興期にはさまざまな人それぞれが、必ず何か

出来ることがある、そのための人材を発掘するような仕組みづくりが重要であることも強調された。また、防災マップ作成時には災害の復興の拠点となるボランティアセンターにすることを出来る施設や、ボランティア用の駐車場などもあわせて考えておくこと減災から復興まで一貫して準備できるのではないかとという意見も出された。

5. 質疑応答

会場から質問や感想をいただき、約15分質疑応答した。

質問は南光台地区の町内のコミュニケーションについて、町内会の掃除が今はされていないようだが、どうしてだろうという内容であった。回答は蕪武氏で、昔はいっせいにやっていた時期もあるが、高齢化などもあり、次第にしなくなってきている。悠友クラブで自発的にやっているとの回答であった。

南光台市民センター職員の方から、出前講座のその後で地区内で防災マップづくりがすすめられていることなどが報告された。

6. 終わりに

本田副部長は、地盤の脆弱さにふれ、地震の危機をイメージし、これを共有し、繰り返し訓練することにより防災力を高め、自分と地域住民一人一人が減災に向かって努力することが重要であることを強調した。

以上



図-1 研修会討論会 風景
(応用理学部会 今野 記)